

月刊 ランティエ。

Rentier is a cool magazine for the intelligent

～ 退屈でない人生を求める男たちへ～

創刊一周年新春特大号
如月
680yen
二〇〇六年二月号

— そうだ、京都へ喰いに行こう —

冬の京都、名店の醍醐味

成年につき

岩合光昭の

大特集「日本犬」

「こころの写真館」

富士山を拜む。

「寿」の宝物展

金色の国宝

Japanese Beauty

「日本女性」と

着物姿

各界十一人語り初め

「ジャ。バンへ

一言申し

上げます」

ひさしぶりにまた逢いたくなくなった……交歓&座談

再会ぐらふ②

撮影＝田中まこと
Photograph by Makoto Tanaka
文＝巴道秀和
Text by Hidetaka Endo

同期生

(松下政経塾)

指導者育成の塾で 寝食を共にした 2期生の男たち

(「万物ことごとくわが師」だそうだ)

国政、地方自治、経済……

同じ寮の数年間、

若者たちはそれぞれの

志を胸に秘め……

塾生たちは、ここでわざわざ語るまでもないほどの活躍を見せている。

しかし、卒業生の名前は知っていても、松下政経塾とはどのようなところかを知っている人は少ないのではないだろうか。

ここには専任の教員もカリキュラムもない。「万物ことごとくわが師」として自習自得していく完全な現地現場主義を貫いている。自らを律し道を切り開いていかなければならないこの私塾に、勇んで飛び込んでいく20代半ばの若者たちは、やはりエネルギーに満ち溢れた人物ばかりのようだ。そしてそんな若者たちは入塾すると全員、寮で寝食を共にすることになる。

現在、衆議院議員3期目として国政の場で活躍している、たたかう庶民派 松原仁、レジ袋課税やアニメーション産業振興など斬新な区政で有名な杉並区長の山田宏、携帯電話向けコンテンツ事業で名を馳せるイマジニア株式会社の社長・神藏孝之、藤沢市議4期目として、藤沢市のために日々邁進している海老根靖典。ITソリユーション企業であるソラン株式会社の中国事業推進室長として、日本と中国を忙しく行き来する横田光弘。政界と財界、道は違えどそれぞれの分野の最前線で活躍している彼らも、松下政経塾2期生として同じ屋根の下で3～5年間を過ごした仲間である。

同じ学舎で切磋琢磨しあった仲間というのは、何年経とうが、別の方向に進もうが、得がたい存在になるものだ。ましてやそれと同じ寮で過ごした仲間となると、なおさらだ。

当時の記憶は、20年の時を超えた今でも顔を合わせれば昨日のこのように甦る。寮でのエピソードから塾での講義内容まで話は尽きることがない。

海老根「松原君は整頓が苦手だったよね」山田「そうそう、自分の部屋がえらいことになっちゃってるもんだから、真ん中にあ

った共有の和室で過ごしてたんだよな」神藏「食べ終わった豆腐の空きパックとかそのまま置いてあったけど、あれってパックから直接食べてたんだろ？」松原「あの頃はとにかく、お金を節約したかったんだよ」

横田「まあ整頓整頓に難ありだったけど、朝6時半の集合はきっちり守ってたよな」山田「そうそう。同部屋だったからよく起こされたよ。「山ちゃん行くよ」って」松原「実は皆勤賞だったんだよ。今でも早起きだよ」

海老根「整頓整頓と言えは神藏君も難ありだったでしょ。ある時、泥棒に入られたと思って職員さんと呼んだら「神藏さんならこんなもんでしょ」って言われたことを覚えてるなあ」

同じ寮で同じ時間を分かち合った者同士でないと分からない、若き日のエピソードが次から次へと飛び出してくる。ほかにも「海老根が入塾試験を終えると、横田がサングラス履きでカマロに乗って書類を取りに来た」「ワークナー好きの松原の部屋からは、よく大音量のクラシック音楽とともに唸るような声が聞こえてきた」「山田は朝の太陽を浴びながら正座していた」——など、高い志が唯一の武器だった20代のころのエネルギーが言葉の端々から伝わってくる。

研修で行った電器販売店での話——。松原の行った店に音楽好きのお客さんがいて話が合い意気投合。その人が松原からいろいろなものを買ってくれたため、成績が良かったため。また横田は同期で唯一の理系出身だったため、販売店の人よりも技術があったという。

皆がまとめ役と認める海老根は「2期生は個性的な変わった人が多かったんです。だから賑やかだったし面白い」という。2006年はもう27期めである。

神奈川県茅ヶ崎市の湘南海岸から少し入った場所に松下政経塾はある。今や、政界を語る上で避けることのできない存在となったこの塾は、松下電器産業の創業者である故・松下幸之助氏が「新しい国家経営を推進していく指導者育成が必要である」との思いから、私財を投じ1979年に設立した。それから25年以上が経った現在、政界や財界などに飛び立っていった多くの卒

忙しいなか、時間を合わせて再会した5人。
「松下政経塾時代の話を」とお願いすると、即座に当時のエピソードを語ってくれた。皆20代の頃に戻ったような顔だった。



神藏孝之
(イマジニア株式会社
代表取締役社長)

松原仁
(衆議院議員)

山田宏
(東京都杉並区長)

横田光弘
(ソラン株式会社
中国事業推進室長)

海老根靖典
(神奈川県藤沢市議会議員)